

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：34525

研究種目：基盤研究C

研究期間：2010～2012

課題番号：22500707

研究課題名（和文）周産期医療を組み込んだ子育てハイリスク群支援ネットワークの実践モデルに関する研究

研究課題名（英文）A practical model of a childrearing support network that incorporates perinatal care for the high-risk group

研究代表者 井上 寿美 (HISAMI INOUE)

関西福祉大学・社会福祉学部・講師

研究者番号：40412126

研究成果の概要（和文）：

妊婦健診未受診妊産婦に対する周産期の支援を手がかりとして、社会的ハイリスク要因をもつ子育てハイリスク群に対する周産期医療を組み込んだ子育て支援ネットワークの実践モデル構築のための視座を明らかにした。支援の前提となる実態把握では、未受診妊産婦は6類型となった。子育てハイリスク群である未受診妊産婦支援に必要なことは次の4点である。①関係に働きかける、②自己肯定感回復支援と他者に対する信頼感回復支援を行う、③出生児の新生児期は支援者が常時存在する、④若年未受診妊産婦問題を子ども問題としてとらえた支援を行う。

研究成果の概要（英文）：

We elucidated perspectives for establishing a practical model of a childrearing support network that incorporates perinatal care for the childrearing high-risk group. This group is defined as having high-risk social factors based on support during the perinatal period for pregnant women and nursing mothers who have not undergone health checkups. Following investigation of the actual condition, which is a prerequisite for support, pregnant women and nursing mothers who had not undergone health checkups for pregnant women were classified into six types. The following four points were identified as requirements in support for pregnant women and nursing mothers in the childrearing high-risk group who have not undergone health checkups for pregnant women: ① modification of relationships; ② provision of support for restoring self-affirmation and trust toward others; ③ constant presence of support provider during child's neonatal period; and ④ provision of support that views the issue of young pregnant women and nursing mothers who have not undergone health checkups for pregnant women as an issue concerning the child.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：生活科学

科研費の分科・細目：生活科学一般

キーワード：社会的ハイリスク，未受診妊産婦，周産期，自己肯定感，信頼感，支援

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の井上は，保育所や幼稚園において，保育者からみて子育てに困難な状況を呈している親を，親の属する社会階層，子育てに対する関心の高低，子育てに対する不安・葛藤の大小を指標として4類型に分類した（井上 2008）【表 1】。

【表 1】 保育者からみて子育てに困難を呈している親

類型	階層	子育てに対する関心	子育てに対する不安・葛藤
A	高	高	大
B	高	高	小
C	低	高	小
D	低	低	小

この類型に基づくと，保育所や幼稚園等における子育て支援をめぐる研究では，A類型の親（高階層/子育て関心高/子育て不安・葛藤大）に対する議論が中心となっていた（井上 2008）。

また，この4類型に基づくと，保育所や幼稚園等において実際に行われている子育て支援もA類型の親を対象とする支援が中心となっていた（井上 2008）。なぜなら，子育て支援の活動内容が，①親子交流の場の提供，②相談・援助，③情報提供，④講習等となっているため，支援を必要とし，かつ，支援にアクセスする意欲を有している人でなければ利用し難いからである。

しかし保育現場では，在園所児の親についてはB類型（高階層/子育て関心高/子育て不安・葛藤小）やD類型（低階層/子育て関心低/子育て不安・葛藤小）の親に対する支援の困難さが，また在園所児以外の地域の親については，C類型（低階層/子育て関心高/子育て不安・葛藤小）やD類型の親に支援が届け難いことが課題となっていた。とりわけ，

D類型の親の場合，保育者が親に対する支援の必要性を把握したときには，すでに子ども虐待が発生している場合も散見された。

他方，周産期医療の側からは，妊婦健康診査未受診妊産婦（以下，未受診妊産婦とする）による子ども虐待の可能性の高さが指摘されていた（後藤・小林・濱田・ほか 2006）。つまり，母親の虐待傾向は，周産期からみてとれるということであった。

以上から，D類型の親のような社会的ハイリスク要因をもつ子育てハイリスク群に十分に対応できていない保育所や幼稚園等における子育て支援をめぐる研究や実践が，子ども虐待の防止に貢献していくためには，周産期からの子育て支援に着手する必要があると考えるに至ったのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は，社会的ハイリスク要因をもつ子育てハイリスク群に対する周産期医療を組み込んだ子育て支援ネットワークの実践モデル構築のための視座を明らかにすることである。本研究において未受診妊産婦に注目するのは次の理由による。未受診妊産婦というのは，妊娠中に妊婦健診を受けないという点において，子どもが誕生する以前から子どもに対する無関心さや無頓着さが顕著に認められる社会的ハイリスク妊産婦であると言える。したがって，周産期における未受診妊産婦に対する支援は，社会的ハイリスク要因をもつ子育てハイリスク群に対する周産期医療を組み込んだ支援と言えるからである。

3. 研究の方法

(1) 未受診妊産婦をめぐる議論の検討

先行研究において、未受診妊産婦の実態、および彼女たちに対する支援がどのように議論されているのかについて検討した。

(2) 未受診妊産婦の実態調査と分析

未受診妊産婦の分娩にかかわった経験を有する助産師 11 名に対して、未受診妊産婦と彼女たちをめぐる「ひと・もの・こと」との関係について、半構造化インタビューを行った。また、生活者としてとらえた未受診妊産婦 23 例について「ひと」に対する関係を指標として分析を行った。

(3) 支援実践モデルの調査

周産期において子育てハイリスク群に対する支援実践モデルとして次の 2 機関の調査を行った。

①医療法人聖粒会慈恵病院（熊本市）が設置した「こうのとりのゆりかご」の現地調査、および、同病院看護部長に対する半構造化インタビュー。

②大阪府の委託を受け大阪府立母子保健総合医療センターが運営している「にんしん SOS」に関わる産科医師に対する半構造化インタビュー。

(4) 地域養護実践の調査

性的虐待等の被虐待児を非専門家である地域住民が協働で継続して受け入れ、社会的養護児童の子育ての社会化を行っている取り組み、すなわち地域養護が実践されている岩手県西和賀町において次の調査を行った。

①児童養護施設の児童を年間を通してホームステイさせる事業に関する聞き取り調査と参与観察。

②全国・まるごと西和賀児童養護施設事業に関する聞き取り調査と参与観察。

4. 研究成果

社会的ハイリスク要因をもつ子育てハイリスク群である未受診妊産婦に対して実効

性の高い支援の実践モデルを構築するためには、彼女たちを生活者として把握する必要がある。したがって以下では、研究方法（1）で明らかになった従来の実態把握の限界と、研究方法（2）で明らかになった生活者としての未受診妊産婦の実態、およびその分析結果を中心に記すこととする。なお、詳細については、2012 年に作成した中間報告書『子育てハイリスク群としての妊婦健診未受診妊産婦の実態に関する研究報告』を参照されたい。

（1）先行研究から未受診妊産婦に対する支援に関わって明らかになったのは次の 4 点である。

①支援の対象者となる未受診妊産婦を表す用語が統一されておらず（飛び込み分娩、未受診妊婦、妊婦健診未受診者、等）、また使用される用語にかかわらず、定義が不明確であった。

②支援の前提となる未受診妊産婦の実態は、生活者ではなく、医療行為の対象者としてとらえられる傾向にあった。

③未受診妊産婦に対する分娩前の支援として教育・啓発活動の必要性が指摘されていた。

④未受診妊産婦の退院後の育児支援については、支援を必要とし、かつ支援にアクセスする意欲を有している人を対象としている現行の子育て支援と同様のものが想定されていた。

（2）未受診妊産婦の実態調査の結果、生活者としての未受診妊産婦は、「ひと」に対する関係を示す 4 つの指標（①助産師からみた外見が「普通」である/ない、②助産師からみた言動が非社会的である/ない、③助産師からみた言動が反社会的である/ない、④出生児を養育する/しない）により、次の 6 類型に分類された【表 2】。

【表2】未受診妊産婦の6類型

類型Ⅰ	助産師から見た外見が「普通」であり、非社会的な言動も反社会的な言動も共にみうけられず、出生児を養育しない若年の未受診妊産婦。
類型Ⅱ	助産師から見た外見が「普通」であり、非社会的な言動がみうけられるが、反社会的な言動はみうけられない、出生児を養育しない若年の未受診妊産婦。
類型Ⅲ	助産師から見た外見が「普通」であり、非社会的な言動も反社会的な言動も共にみうけられない、出生児を養育する高年の未受診妊産婦。
類型Ⅳ	助産師から見た外見が「普通」であり、非社会的な言動はみうけられないが、反社会的な言動がみうけられる、出生児を養育する高年の未受診妊産婦。
類型Ⅴ	助産師から見た外見が「普通」とは異なり、非社会的な言動はみうけられないが、反社会的な言動がみうけられる、出生児を養育しない未受診妊産婦。
類型Ⅵ	助産師から見た外見が「普通」であり、障害により非社会的な言動がみうけられるが、反社会的な言動はみうけられない、出生児を養育する未受診妊産婦。

また、6 類型の未受診妊産婦について、彼女たちの主観的事実を重視した分析をおこなった結果、未受診妊産婦は、彼女たちの周りにいる人との間で、次の6つの関係状況に生きていることが明らかになった【表3】。

【表3】未受診妊産婦が生きている周りにいる人との関係状況

類型	関係状況
I	周りにいる人から助けてもらえない関係状況
II	周りにいる人から応答されていない関係状況
III	周りにいる人から気にかけていない関係状況
IV	周りにいる人から受け入れられていない関係状況
V	周りにいる人と結ばれていない関係状況
VI	周りにいる人から護ってもらえない関係状況

上記の結果から導き出された知見は次の4点である。

- ①未受診妊産婦問題というのは、彼女たち個人の問題ではなく、彼女たちが生きている関係状況の問題である。したがって、彼女たちへの支援は、関係に働きかける支援となる必要がある。
- ②未受診妊産婦が生きている関係状況から導き出されることは、彼女たちは、その類型を問わず、自己肯定感と他者に対する信頼感が共に低いということである。したがって、未受診妊産婦支援としてまず着手しなければならないのは、母親支援や子育て支援ではなく、彼女たちの自己肯定感回復支援と他者

に対する信頼感回復支援となる必要がある。

③虐待傾向のある母親の特徴を用いて未受診妊産婦の実態に検討を加えると、すべての類型の未受診妊産婦において虐待傾向が認められる。したがって、児を自らの手で育てる未受診妊産婦に対しては、児の生存の可否が全面的に他者に委ねられている児の新生児期において、未受診妊産婦による児の養育を支援する者が、常時、彼女たちの傍に存在する必要がある。

④類型Ⅰ、類型Ⅱである10代の未受診妊産婦については、家族からの心理的・性的虐待等、機能不全家族での権利侵害状況が認められる。したがって、若年未受診妊産婦に対する支援は、その問題を妊産婦問題としてではなく子ども問題としてとらえ、取り組む必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

- ① 笹倉千佳弘・井上寿美 (2013) 「地域養護活動が児童養護施設の子どもに与える影響」就実教育実践研究センター『就実教育実践研究』6, 205—211, 査読有。
- ② 井上寿美・笹倉千佳弘 (2013) 「妊婦健診未受診妊産婦による新生児虐待の回避要件—虐待傾向のある母親の特徴をふまえて—」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』16 (2), 13—18, 査読有。
- ③ 井上寿美 (2012) 「子育ての社会化における親による養育責任—子育てに関わる責任の所在と担われ方の検討をとおして—」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』16 (1), 29—35, 査読有。
- ④ 井上寿美 (2012) 「親と子どもの関係の意味を変化させる仕組みとしての『このとりのゆりかご』」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』15 (2), 13—21, 査読有。
- ⑤ 井上寿美・笹倉千佳弘 (2011) 「子育てハイリスク群としての未受診妊産婦の実態」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』15 (1), 59—66, 査読有。
- ⑥ 笹倉千佳弘・井上寿美 (2011) 「周産期医療の現場における子育てハイリスク群の

実態—妊婦健康診査未受診妊産婦を中心として—」就実教育実践研究センター『就実教育実践研究』4, 25 - 33, 査読有.

- ⑦ 井上寿美 (2011) 「妊婦健康診査未受診妊産婦をめぐる研究の動向と課題—周産期医療を組み込んだ子育てハイリスク群支援ネットワークの実践モデル構築に向けて」就実教育実践研究センター『就実教育実践研究』4, 11-24, 査読有.
- ⑧ 井上寿美 (2011) 「周産期医療を組み込んだ子育て支援をめぐる研究の動向と課題」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』14 (2), 21 - 29, 査読有.
- ⑨ 井上寿美 (2010) 「飛び込み分娩をめぐる研究の動向と課題—周産期医療を組み込んだ子育てハイリスク群支援ネットワーク実践モデル構築に向けて—」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』14 (1), 17 - 23, 査読有.

〔学会発表〕(計6件)

- ① 比名朋子・笹倉千佳弘・井上寿美・ほか「未来事象に対する合理的な行動決定能力のない妊産婦に対する援助可能性の検討」第53回日本母性衛生学会学術集会, 2012年11月16日(於:アクロス福岡).
- ② 井上寿美・笹倉千佳弘・大西舞・ほか「社会規範逸脱が著しい行動決定を行う妊産婦に対する援助可能性の検討」第53回日本母性衛生学会学術集会, 2012年11月16日(於:アクロス福岡).
- ③ 井上寿美・笹倉千佳弘「妊婦健診未受診妊産婦による出生児虐待の回避要件—虐待傾向のある母親の特徴をふまえて—」日本社会福祉学会第60回秋季大会, 2012年10月20日(於:関西学院大学).
- ④ 井上寿美・笹倉千佳弘「子育ての社会化に関する事例的研究」日本保育学会第65回大会, 2012年5月4日(於:東京家政大学).
- ⑤ 井上寿美・笹倉千佳弘「妊婦健診未受診妊産婦による周産期の言動をめぐる研究—妊婦健診未受診妊産婦の理解の仕方にそくして—」日本社会福祉学会第59回秋季大会, 2011年10月9日(於:淑徳大学).
- ⑥ 井上寿美「周産期医療を組み込んだ子育て支援をめぐる研究の動向と課題—子育てハイリスク群支援ネットワーク構築に向けて—」日本社会福祉学会第58回秋季大会, 2010年10月10日(於:日本福祉大学).

〔その他〕(計4件)

- ① 笹倉千佳弘「新生児期の虐待防止—妊婦健診未受診妊産婦の実態調査をふまえて—」, 社団法人日本医師会/公益財団法人SBI子ども希望財団/社団法人岡山県医師

会「子育て支援フォーラム in 岡山～子育ての応援とゼロ歳児からの児童虐待防止を目指して～」2013年1月19日(於:ホテルグランヴィア岡山).

- ② 井上寿美・笹倉千佳弘「子どもを育てない親への支援—親が育てない子どもへの支援—妊婦健診未受診妊産婦の実態調査をふまえて—」, 2012年度科研費シンポジウム, 2012年9月22日(於:HRCビル).
- ③ 笹倉千佳弘「妊婦健診未受診妊産婦の実態—未受診妊産婦の類型化と典型事例の紹介—」, 「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム11・岡山子育てネットワーク研究会・岡山県産婦人科医会, 岡山県「周産期からの児童虐待防止事業」妊娠中からの気になる母子支援公開セミナー「社会的ハイリスク妊産婦を救えるか?」2011年12月18日(於:岡山大学).
- ④ 笹倉千佳弘「飛び込み分娩の実態について」, 日本産婦人科医会岡山県支部・岡山大学 COE「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム10・岡山子育てネットワーク研究会, 岡山いきいき子育て応援事業公開シンポジウム「産科発の子育て支援システム構築—妊娠中からの切れ目のない支援を目指して—」2010年11月27日(於:岡山大学).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 寿美 (INOUE HISAMI)
関西福祉大学・社会福祉学部・講師
研究者番号: 40412126

(2) 研究分担者

笹倉 千佳弘 (SASAKURA CHIKAHIRO)
就実短期大学 幼児教育学科 准教授
研究者番号: 60455045